

北高れくちゅあ 2017 ー人類学リレー講義「人類学への招待」ー

第 2 回 「カスカ族に学ぶ、動物と話す 3 つの方法」

10月7日(土) 14:00 ~

講師：山口未花子 岐阜大学地域科学部 助教

【プロフィールと講演の内容】

中学高校と通った自由の森学園はテストも校則も(ほぼ)ない自由な校風で知られ、当時の私は勉強よりも友人と遊んだり、絵をかいたり、本や漫画を読んだり、とにかく好きなことばかりしていました。そうした好きなことの 하나가、「動物」のことでした。生物の先生と一緒に海や森を歩いたり、学校の裏山で野生動物を餌付けしたり……。そうした動物好きが高じて大学は生物系の学部に進学しましたが、動物のことだけでなく人と動物との関係というより広い視野から動物の研究をしたいと思い、大学院からは現在の文化人類学という学問を専攻することにしました。

文化人類学者としては日本の捕鯨、西表島のイノシシ猟のほか、カナダの先住民(いわゆるインディアン)カスカ族の狩猟文化について研究しています。カスカ族の研究を始めてまず驚いたのは、動物に対する考え方が日本人とまるで違っているということです。なかでも面白いのは、カスカの人々は、動物は人間と話ができると考えているところです。ただし、だれでも、というわけではありません。本講演では、カスカの人々に教わった動物と話をする方法について、ユーコン準州の大自然に囲まれた日々の暮らしや狩猟の様子なども交えながら、お話しようと考えています。

